

## 分科会(環境)の感想

川村 彩

まず、私たちは準備として事前研修中にディスカッション係を中心に日本とラオスの環境問題についての情報をまとめた。さらに、現地での自主活動時間等を利用して環境科学を研究分野としている団長から日本とラオスの環境問題の類似性についてお話を伺った。この時挙げられた日本の環境問題には四大公害、足尾鉍毒事件、福島の原子力発電所の事故があった。これらの事前準備は私たちが自信を持って発言できるようにし、ディスカッションをより良いものとするために必要なものであった。

フォーラムでのディスカッションでは、最初に「開発による環境への影響」について話し合った。私のグループでは、一人の高校生のラオス青年が率先して発言し、リーダーシップを発揮したおかげで話合いがスムーズに進んだ。ラオス青年の中にはあまり英語が得意ではない青年もあり、議論が白熱していくうちに一部の青年だけでのディスカッションになってしまうことがあった。私も自分の知識不足と英語力不足でなかなか発言できないことがあり、歯がゆい思いをした。この時気付いたことは、ラオス青年が「日本は技術を持ったきれいな国で、ラオスとは異なり環境問題はあまり抱えていない」という考えを持っていたことだった。そこで私たちは事前に学習した日本の環境問題について共有し、これからラオスで開発が進む上で日本と同じような環境被害が起こりうることを伝えた。日本で実際に起きた例を説明することでラオス青年たちに環境問題の深刻さを身近に感じてもらい、日本の実情についても伝えることができたため、私は大きな手ごたえを感じた。

2日目はラオス国立大学の学生へのインタビューをもとにして、アクションプランの作成を進めた。そこでの課

題として挙げられたことは、現在ラオスでは環境に関する教育が足りていないということだった。また、ディスカッション中、ラオス青年たちが「何事をするにも政府の許可がある」「一番よく働いたものには賞を与えなければならない」という意見を主張したことで、考え方の違いに気付き、ラオスは社会主義国であることを感じた。現在、ラオス青年たちが必要としている教育は何か。ラオス青年たちが学んだことをもとに自立して活動するようになるために、どう支援を行えばいいのか。環境問題だけでなく、ラオスでの教育問題や一人一人の働く形についてもディスカッションを進めた。最後にアクションプランを完成させ、グループのメンバー全員で一丸となって発表を行った時には大きな達成感を覚えた。

私はこの2日間のフォーラムを通して国際交流、また国際的なディスカッションの面白さや重要性に気付いた。自分たち青年は財力もなく、ディスカッションにあったような大きなアクションプランを実行することはできない。しかし、私たち日本人が実際に体験した環境問題について正しい知識を持ち、責任を持って伝えることでラオス青年たち一人一人に環境問題の深刻さを理解してもらうことはできる。それを積み上げていくことでラオス青年全体の環境問題や、そこから発展した様々な問題への意識を高められるのではないか。また、私たち日本人もラオス青年から新たな考え方を知り、日本の環境問題について、また実際にラオス青年と共に協力して働く形について新たな考えを得ることができた。このように「ディスカッション=参加者全員の新発見」であることを私に気付かせてくれたこのフォーラムは、私にとってかけがえのない経験となった。



## 分科会(環境)の感想

川村 彩

まず、私たちは準備として事前研修中にディスカッション係を中心に日本とラオスの環境問題についての情報をまとめた。さらに、現地での自主活動時間等を利用して環境科学を研究分野としている団長から日本とラオスの環境問題の類似性についてお話を伺った。この時挙げられた日本の環境問題には四大公害、足尾鉍毒事件、福島の原子力発電所の事故があった。これらの事前準備は私たちが自信を持って発言できるようにし、ディスカッションをより良いものとするために必要なものであった。

フォーラムでのディスカッションでは、最初に「開発による環境への影響」について話し合った。私のグループでは、一人の高校生のラオス青年が率先して発言し、リーダーシップを発揮したおかげで話合いがスムーズに進んだ。ラオス青年の中にはあまり英語が得意ではない青年もあり、議論が白熱していくうちに一部の青年だけでディスカッションになってしまうことがあった。私も自分の知識不足と英語力不足でなかなか発言できないことがあり、歯がゆい思いをした。この時気付いたことは、ラオス青年が「日本は技術を持ったきれいな国で、ラオスとは異なり環境問題はあまり抱えていない」という考えを持っていたことだった。そこで私たちは事前に学習した日本の環境問題について共有し、これからラオスで開発が進む上で日本と同じような環境被害が起こりうることを伝えた。日本で実際に起きた例を説明することでラオス青年たちに環境問題の深刻さを身近に感じてもらい、日本の実情についても伝えることができたため、私は大きな手ごたえを感じた。

2日目はラオス国立大学の学生へのインタビューをもとにして、アクションプランの作成を進めた。そこでの課

題として挙げられたことは、現在ラオスでは環境に関する教育が足りていないということだった。また、ディスカッション中、ラオス青年たちが「何事をするにも政府の許可がある」「一番よく働いたものには賞を与えなければならない」という意見を主張したことで、考え方の違いに気付き、ラオスは社会主義国であることを感じた。現在、ラオス青年たちが必要としている教育は何か。ラオス青年たちが学んだことをもとに自立して活動するようになるために、どう支援を行えばいいのか。環境問題だけでなく、ラオスでの教育問題や一人一人の働く形についてもディスカッションを進めた。最後にアクションプランを完成させ、グループのメンバー全員で一丸となって発表を行った時には大きな達成感を覚えた。

私はこの2日間のフォーラムを通して国際交流、また国際的なディスカッションの面白さや重要性に気付いた。自分たち青年は財力もなく、ディスカッションにあったような大きなアクションプランを実行することはできない。しかし、私たち日本人が実際に体験した環境問題について正しい知識を持ち、責任を持って伝えることでラオス青年たち一人一人に環境問題の深刻さを理解してもらうことはできる。それを積み上げていくことでラオス青年全体の環境問題や、そこから発展した様々な問題への意識を高められるのではないか。また、私たち日本人もラオス青年から新たな考え方を知り、日本の環境問題について、また実際にラオス青年と共に協力して働く形について新たな考えを得ることができた。このように「ディスカッション=参加者全員の新発見」であることを私に気付かせてくれたこのフォーラムは、私にとってかけがえのない経験となった。

